

**（仮称）狭山市地域福祉推進計画
団体等アンケート調査報告書**

平成26年1月

狭山市、社会福祉法人狭山市社会福祉協議会

目 次

第1節 調査の概要	・ ・ ・ 1
第2節 調査の結果	・ ・ ・ 2
（1）回答団体等に関する基本的な情報	・ ・ ・ 2
（2）市等の地域福祉施策の取り組みに関すること	・ ・ ・ 16
（3）他団体等との関わりに関すること	・ ・ ・ 19
（4）今後の地域福祉施策の方向性に関すること	・ ・ ・ 21
（5）自由意見	・ ・ ・ 23

第3次（団体等アンケート）調査中間報告

第1節 調査の概要

（1）調査の目的

狭山市地域福祉推進計画の策定にあたり、狭山市民の福祉に関する意識及び潜在的なニーズ等を把握するとともに、今後の地域福祉に関する計画のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的にアンケート調査を実施しました。また今後、アンケート調査結果を踏まえ、福祉的課題やニーズ把握するためのヒアリングを実施する予定です。

（2）調査対象団体等

160 団体（市内に事務局等を置く福祉関係団体・事業者）

（3）調査方法

アンケート調査は、郵送配布・郵送回収
ヒアリングは、面接による

（4）調査期間

- ① アンケート調査
平成25年10月1日（火）から31日（木）まで
- ② ヒアリング
平成26年1～2月（予定）

（5）回収結果

- ① 配布数：160 票
- ② 有効回収数：110 票
- ③ 回収率： 68.75%

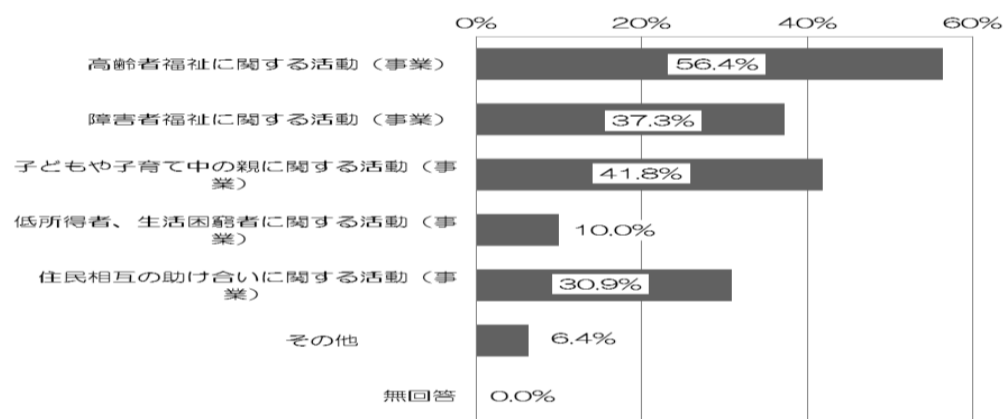
（6）注意事項

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- ② 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常の100%を超えます。
- ③ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いることがあります。

第2節 調査の結果

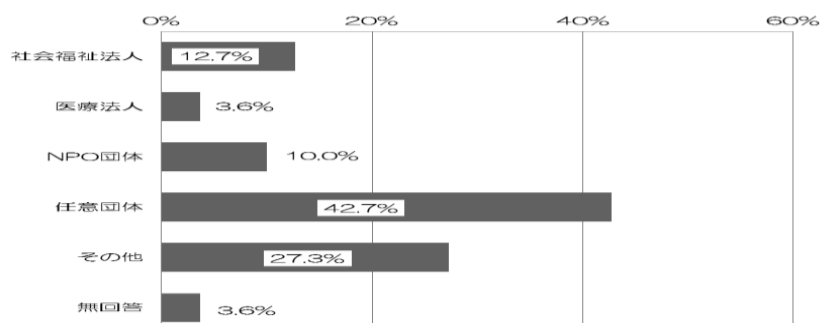
(1) 回答団体等に関する基本的な情報

問1 団体・事業所の主な活動分野（答え「いくつでも」）



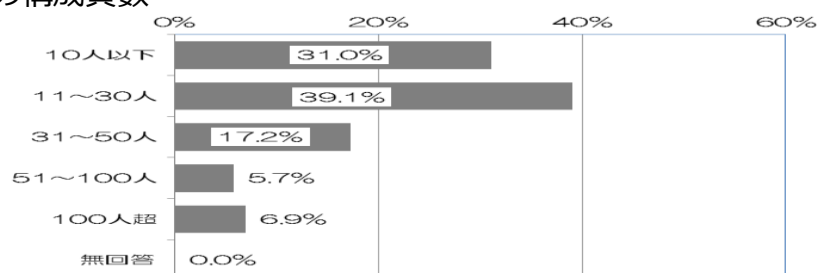
「高齢者福祉に関する活動（事業）」（56.4%）がもっとも高く、次いで「子どもや子育て中の親に関する活動（事業）」（41.8%）、「障がい者福祉に関する活動（事業）」（37.3%）の順となっています。

問2 団体・事業所の運営主体



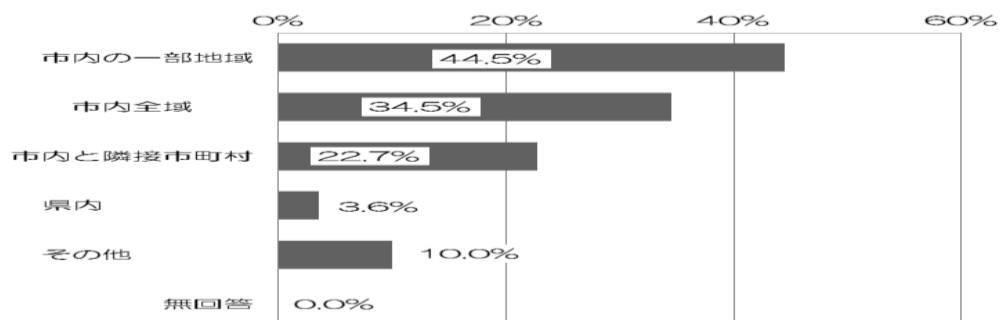
「任意団体」（42.7%）がもっとも高く、法人格を持った団体は26.3%となっています。

問3 団体・事業所の構成員数



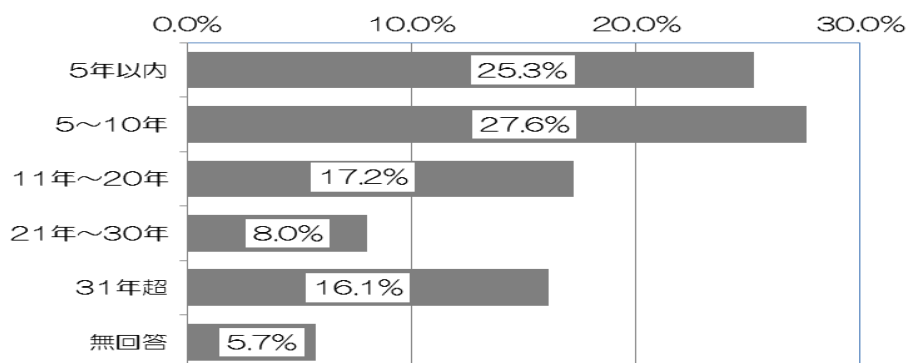
「11～30人」（39.1%）がもっとも高く、構成員30人以下の団体・事業者が全体の70.1%となっています。

問4 団体・事業所の主な活動範囲（答え「いくつでも」）



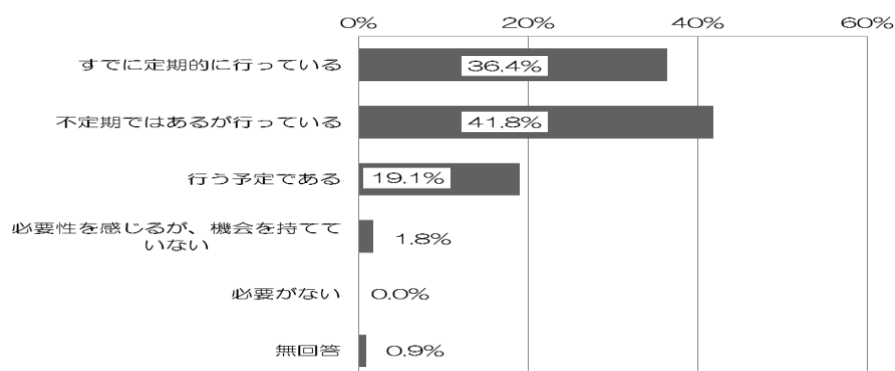
「市内の一部地域」（44.5％）がもっとも高く、次いで「市内全域」（34.5％）の順となっています。

問5 団体・事業所の発足年度



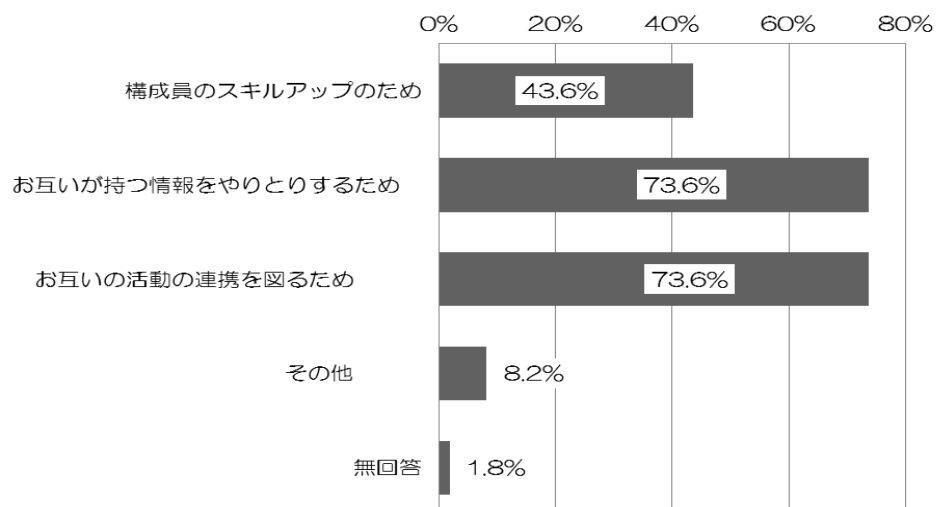
「5～10年」（27.6％）がもっとも高く、発足してから10年以内の団体・事業所が全体の52.9％となっています。

問6 他の団体・事業者との勉強会や意見交換会、交流等の状況



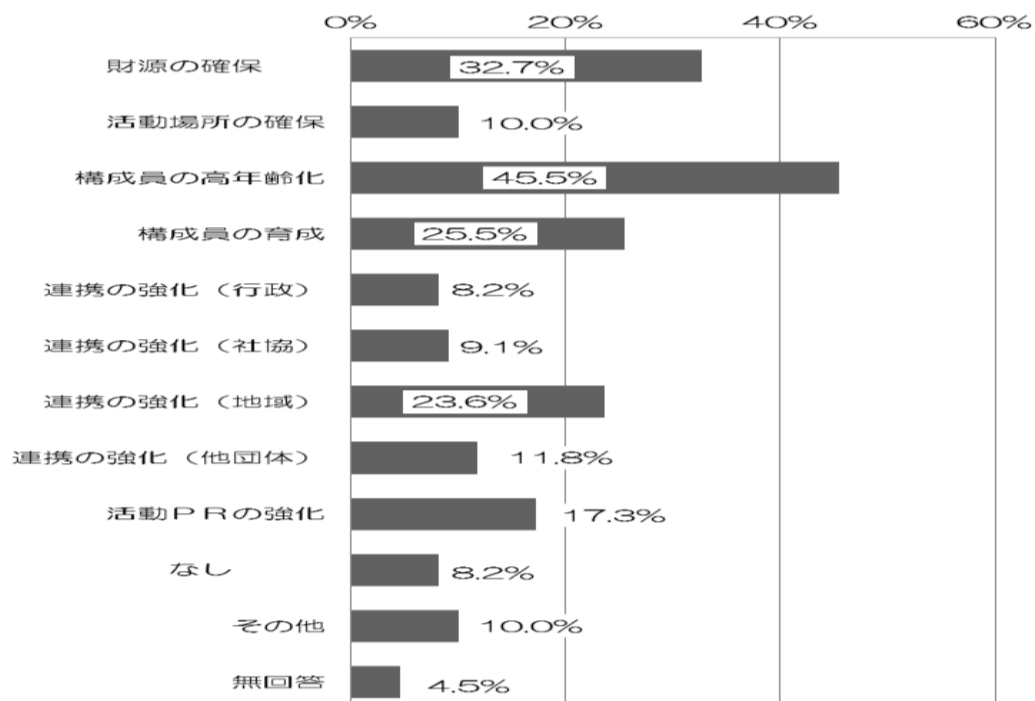
「不定期ではあるが行っている」（41.8％）がもっとも高く、「すでに定期的に行っている」、「不定期ではあるが行っている」と何かしらの形ですでに行っている団体・事業所が全体の78.2％となっています。

問7 他の団体・事業者との交流を行う目的は何ですか。(答え「いくつでも」)



「お互いが持つ情報をやりとりするため」(73.6%)、「お互いの活動の連携を図るため」(73.6%)が高くなっています。

問8 活動上での課題、困っていることなど(答え「3つ以内」)



「構成員の高年齢化」(45.5%)がもっとも高く、次いで「財源の確保」(32.7%)、「構成員の育成」(25.5%)、「連携の強化(地域)」(23.6%)の順となっています。

問9 活動上での課題、困っていることを解決するために、どのような対応をされていますか。ご自由にご記入ください。(自由記述)

主な意見

- 現在は助成金を活用しているが、助成金がなくなった時に活動ができるのか不安である。
- (経済的な、または、PRとして) 公的援助をお願いしたい。
- お金がないので、講師は無料または低額で依頼している。
- お金がないので、活動が限定的になってしまう。
- バザー等で資金集めをしている。
- 構成員の人材育成のために、研修会や学習会を開催している。
- 入会した方が良いと思う人がいても、入会につながらない。
- 民生委員や自治会の担い手がいない。
- 高齢化による会員減となっており、新しい会員を募集するが、なかなか集まらない。また、そのことにより、活動に支障を来している。
- 負担にならないよう、出来る範囲での協力を依頼し、役割を担ってもらうことで、活動の主体者としての意識を醸成している。
- 活動場所の拠点が必要である。
- 道具類は出来るだけ修理して使用するか、借りたり、個人負担している。
- 目標に対しての分野ごとの具体的ビジョンがほしい。
- どんな活動をしているのかが見えない。
- チラシや広報紙などによる情報発信の他、活動を通じた PR をしている。
- 個人情報保護や守秘義務が、情報の共有化の壁になっている。
- 地域の温度差をどう解消するかが課題となっている。
- 他団体との連携を深めるため、情報交換の場を設けている。
- 会議やイベントに積極的に参加し、連携できるようにしている。
- 活動が広範囲のため、どう地域の人を巻き込むのかに苦慮している。
- 取り組むべき地域課題を整理し、優先順位をつけて、積極的に具現化を目指している。

(1) 財源に関すること

ア. 補助金・助成金に関すること

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 継続していく上での財源確保が一番困難です。独居老人が多く、週に1回ぐらいは皆と一緒に食事がしたいと要望があり、ランチ（軽食）メニューも追加し、喜んで頂いています。年金のみの超高齢者が多数で、10円を数えながら会費を払います。現在は、社協の助成金と団地自治会からの補助金で助けられ、運営は順調ですが、この先にあるサロンの<u>独立採算になる時の財源確保が心配、不安です。</u>● 助成金は年数が決まっており、<u>打ち切られたら活動が出来なくなるという不安を毎年抱えています。</u>● 外に出ず、収入を求めずに子育てをされているお母さんのために、出来る限りの<u>公的援助を望みます。</u>● 当会の2大イベントとして「狭山市シニア芸能発表大会」を開催して来ましたが、平成17年度より委託料が減額され、出演グループより出演料を出して頂き、不足分を一般会計より補てんしています。入間市老連の芸能発表会では、<u>会場費を市が負担しているそうですので、狭山市でも補助して頂ければ幸いです。</u> | <ul style="list-style-type: none">● 先輩サロン「びよんびよん」のように、イオンの黄色いレシートの<u>助成金で賄うか、月の行事イベントは行わずに交流のみのスペースにするか</u>思案中。● 財源確保のため、狭山イオン「イエローキャンペーン」に12回参加し、年2回、金額は少ないが、文具やその他の必要なものを確保している。● 毎月11日には、イオン「幸せの黄色いレシート」キャンペーンに参加し、当団体のボックス前に立ち、PRをしている。● 財源の確保。活動継続するために必要不可欠で、資金源として会費、事業収入、各補助金・助成金で何とか運営資金を調達している。事業収益を民間企業並みに計上出来れば苦労はないが、NPOの性格上、住民の利便性を最重視せざるを得ず、そこが困難と直面するところ。<u>行政として、これからの社会形成上、NPOの必要性を市民にあまねくPRしていただく強力な施策を強く望むところ。</u>企業、団体、個人等からの寄付金を集め易くなる。欧米においては常識ではあるが、結果としてNPOの社会的立場も向上すると同時に、経営が安定し、若者の雇用も可能となる。
(次のページに続きます) |
|---|---|

● 狭山市の25年度補助金等交付金の申請を行いました。2013年「24時間テレビ」36に福祉車両寄贈申込みも行っていません。 ● まだ設立して間が無いので、色々な情報（助成金等の）を集めております。	● 財源確保のため、補助金を頂けるよう応募中である。 ● 会費で活動しています。最新の医療情報やリハビリの専門的な情報の講演会の開催は無理でしたが、2010年度より「狭山市福祉活動応援助成金」の援助を頂き、講演会を開催出来ました。
--	--

イ. 自主財源に関する事

● 財源の確保に関して、同じ事業を行っている他団体と連動が必要。 ● 財源は会費が主であり、そのため、活動の規模は限定的となっている。 ● 社協の補助金申請に応募したり、フリーマーケットを開催し、財源の確保に努めている。 ● 財源確保のため、年一回のバザーを開催しています。 ● バザー等に参加していますが、ふれあい広場や公民館の文化祭への出店が減っており、苦しい状況です。	● 財源の確保について、今まで、片親の家庭は会費免除でしたが、次年度からは半額を集める予定です。多くのバザー等にも参加したいが、若い会員が増えず、高齢の会員が中心なので、無理が利かない。 ● 参加費を値上げしたいが、当初から一人100円を維持している。対応としては自治会からの補助（年5000円）、活動拠点（集会所等）の無償供与と、茶菓子は手製の物も提供している。
---	---

ウ. その他

● 会員の活動には、交通費等を含めて費用の一切を支弁していないが、活動意欲の高揚には対策が必要と感じています。	● 講師を依頼したいが、少ない予算ですので、事情を理解して頂ける地域の方に協力を得て、無料、または少額の謝礼で開催している。
---	--

(2) 人材に関すること

ア. 人材育成に関すること

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● <u>研修会などへ積極的に参加</u>をし、人材育成をしている。● <u>手話技術向上のため、学習中</u>である。● <u>構成員の育成に関して、研修会等への参加、内部での学習会</u>をしている。● <u>子育てプレイス水野のボランティア等</u>に積極的に参加し、学んでいる。 | <ul style="list-style-type: none">● 会員の知識や意識を高めるために、<u>研修会を設けている</u>。● 一人でも多くの人に精神保健福祉に関する理解を深めて貰うため、啓蒙活動をしている。中学生に対するメンタルヘルス教育が行われる時にお手伝い出来るよう、メンタルヘルスリテラシーのインストラクター養成講座への参加準備を始めました。 |
|--|---|

イ. 新たな人材の勧誘や発掘、後継者の育成に関すること

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● やりたいことはたくさんありますが、能力・時間等がついて行かない。<u>入会して頂けたら良いと思われる人は数多いのですが、その方々との繋がりが持てないことがもどかしいです。</u>● 団体の活動として相談活動等を行っていますが、あまり人が集まらず、相談があっても、相談だけで終わってしまい、<u>活動への参加に至りません。</u>● 関連する分野で、活動のコアである<u>民生委員の担い手がなかなかいないこと。</u>制度の根幹を揺るがすことであり、苦慮している。解決策の一つとしては公的職業経験者（市職員等）本人や配偶者が参画して頂くように、啓発・推進をして貰えないか。 | <ul style="list-style-type: none">● 心当たりへの勧誘をしている。<u>民生委員・児童委員の地区での欠員対応が必要。</u>（同委員は構成員と考える。）● 団体に対する周りの認知度が低いため、協力してもらえない。そのため、<u>後任の選出が難しい。</u>● 定年延長により<u>民生委員の受け手が少ない。</u>女子の場合も、パートに出る人が増え、受け手が少ない。対応として多くの行事や活動に参加し、顔見知りとなることにより、民生委員の活動を理解してもらうとともに、民生委員は「大変な仕事」であるという誤解を解いてもらう。 <p style="text-align: right;">（次のページに続きます）</p> |
|---|--|

- 会員 18 名を抱えて活動を行っているが、活動に理解を示し、協力が得られるのは、会員数の3分の1位です。事業の拡大に伴い、消化しきれない案件が増加している。高齢化と健康上の不安を抱える会員の増加は大きな課題ですが、今後の活動を推進するために、元気大学修了生の新規加入が必須。
- 活動 26 年目となりましたが、後継者の育成が大きな課題です。一割ほどの若い世代の育成が当面の課題です。ずっと以前は市民健康大学の修了生に入会して頂き助かりましたが、今はその母体が無く困っています。
- 高齢化により会員が認知症、その他の病により減少しています。サロン内容をPRしてもらい、仲間を増やしていきたい。
- 若い人の入会がなく、会員の高齢化等、活動制限があり、出前先の依頼に対応出来なくなっている。お客さんとしては喜んで来るが、自分が届ける方にはならないのが現状。
- 社協ボランティアセンターを通じての会員募集をしている。
- 後継の若手が入ってこない。社協のボランティア養成に期待する。
- 後継の若手が入ってこないので、社協のボランティア養成に期待したい。会員の伝手で勧誘はしているが、充分ではない。自治会の役員も同様に、応募者が少ないが、若手の志向が変わっており、心配です。
- 会員の高齢化で、活動費・活動範囲が縮小している。いつまで活動が続けられるか心配です。年に数人、見学者があり、定例会にもご出席頂き、色々話し合い等を行っているが、入会者は殆んどゼロの状態です。年齢差、社会状況の変化、ボランティアに対する考え方や意気込みのギャップが大きい過ぎるのが要因と考えるので、これからの社会に合致できる体制作りを目指します。
- 構成員の高齢化で活動が難しい。職務を理解して頂き、若い方にも委員を受けて欲しいが、なり手がいない。
- 新しい構成員の獲得が必要。
- 事業活動の場でPRにつとめているが、構成員の増強には難がある。
- 介護をしている人の心のケアが出来ればと活動していますが、なかなか会員が増えません。そこで年数回の勉強会には、会員だけでなく、社協だよりで参加者を募り、少しずつ増やしています。
(次のページに続きます)

● 無償の移送サービスで毎月80件以上活動しているが、困っているのは<u>運転者が2名不足</u>していることです。市広報や社協だより等に募集案内を出している。広報担当役員を今秋から新設し、効果を期待したい。 ● 地区センターを通じて協力者を不定期に募集、PRしています。 ● <u>メンバーの高齢化と減少</u>が問題。積極的にPRし、新メンバーを確保する必要がある。 ● <u>団員の高齢化のため、若手団員を確保</u>したいのですが、<u>大変難しい</u>状況です。出来る限りイベント参加時にPRし、団員も個人的に友人・知人に声をかけ、入団を呼びかけています。	● 構成員になる<u>若い人材の募集</u>をPRしている。 ● 若い方達に機会があるごとに声をかけ、仲間に入って貰うようにしています。 ● 年に1回、サロンの総会を兼ねて（女性だけで）、今まで参加された方々にお手紙を出し、外食で「<u>親睦会</u>」を開き、<u>サロンのお手伝い</u>を勧誘している。 ● 構成員の高齢化については、次世代の人材育成を考え、あらゆる機会、ネットワークを通して、<u>新規会員を糾合</u>しようと日々活動している。また、新規のメンバーにもあまり負担にならない程度の軽微な「<u>役割</u>」を担ってもらい、会の目的の「<u>共有化</u>」を図り、各自に活動の「<u>主体者</u>」としての意識の醸成を図っている。
---	--

ウ. 他団体からの人材の派遣、参加者の協力に関すること

● 活動場所への交通手段がはかばかしくない。運転できる人を一人お願いするか、家族の助けを借りている。 ● 定例会、イベント開催時には社協からの<u>ボランティアさんのお手伝いをお願いし、大変助かっています</u>。歩くことが不自由なため、現在、「入間川九十会」をお願いし、定例会等への参加が極めて容易になりました。是非、続けて頂きたいと思ひます。	● 構成員の<u>高齢化により会員減</u>は避けられず、<u>自治会へ協力依頼</u>をしている。 ● 主に社協に<u>スタッフ、協力者の紹介</u>をお願いしています。 ● 参加された子育て中の親たちに、<u>スタッフ、または、お手伝い出来る範囲での協力</u>をお願いしています。 （次のページに続きます）
--	--

● サロンでは、介護予防体操・歌等、時期に合わせ、心身に良い活動を行っています。一人暮らしの高齢者の参加が難しいので、見守りに行った際、根気よくサロンへの参加を促しています。男性へのサロン参加を呼びかけるため、出し物の依➤	頼や仕事をお願いしています。子育てサロンはまだ地域に知られて居ないが、毎月発行のサロン通信で参加を呼びかけています。11 月には高齢者と、未就園児と保護者の混合サロンを行います。
---	--

工. その他

● 開所以来 18 年、通所者もボランティアも齢を重ねました。在宅障害者の居場所づくりという当初の目的は変わりました➤	せん。当事者が自主的に意欲を持って活動できるような体制づくりのため、日々、協議を行っています。
---	--

(3) 場所に関すること

● 「青空サロン」を展開しているが、屋外での活動場所にトイレが無い場合が多く、困っています。 ● 市の施設の活用が必要。	● 地区内に活動を展開する場所の確保が必要。 ● 活動拠点として専用事務所の確保が課題となっているが、資金が無い。
---	--

(4) 機材・物品に関すること

● 各種道具類は出来る限り修理して使用し、お祭りの収入で低価格のおもちゃを購入している。	● 市内 15 か所で健康づくり、仲間づくりのスローガンで。公民館事業の元気塾を合わせると、年間 7 千人を超える人が集まっている。各種道具の不足は、他団体から借りたり、個人で負担したりしている。
--	--

(5) 情報に関すること

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 高齢者も障害者も地域で支える社会の実現という究極の目標に対し、分野毎の具体的なビジョンが欲しいと思います。● 案内のチラシやおたよりを公共機関に配布し、設置しています。年に1度、商業施設や病院などを回り、ポスターを張っています。● 当初は会員が少なく、赤字が続いた。打開策として広報さやまの会員募集のコーナーにてPR。社協のふれあいサロンの登録団体となり、現在に至る。口コミで会員を増やしたことで、月1回の開催だが、毎回20人前後の高齢者が参加している。ただ会員制ではないので、毎回、参加者数が気になる。● 社協のボランティア教室等での点字体験を通じてPR活動しています。● 「ふれあい」等の広報活動や、社協で行う活動への参加で情報発信が必要。● 広報活動を強化する。毎月1回の活動予定を決め、それをプリント(A4)にして手渡しで配布する。また、PCメール・携帯メールで希望者に配信し、ホームページも立上げ、自由に見られるようにしている。 | <ul style="list-style-type: none">● イベント毎に特徴を持たせて、活動PRを行っている。しかし、自治会活動に対する住民の理解と協力関係が広がらない。● 「親なき後」の心配、住まいのことを考える、または解決するための会合を定期的に行っているが、まだまだ序の口というところです。● 精神疾患を抱え、何らかの社会資源を利用できている人は約4割というのが現状です。地域生活支援センターや就労継続支援B型事業所より上位の資源の話が聞こえてこない。● 個人情報保護や守秘義務の問題により、自治会との情報交換、協力体制が難しい。● 個人情報の開示が必要。● 情報の共有が必要。● いろいろな方面から民生委員が持っている情報が欲しいと言われるが、民生委員は困っている人々の相談による情報が多いため、提示できる情報は殆んど無い。 |
|--|--|

(6) 他団体等との連携に関すること

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 構成団体（123団体）の連携、繋がりが困難。<u>地域の温度差もあり、目的の統一が大きな課題。</u> ● 支部構成員が自治会、民生委員であり、それぞれの活動が忙しいために、きめ細かい支部活動が難しい。<u>地域の他団体との情報交換、問題解決のための議論する場を設け、連携強化に取り組んでいる。</u> ● <u>地域の人々が、社協の支部が何をしているのか理解していないのが現状です。</u>特に自治会で支部社協の仕事が分かっていません。自治会・民生委員と社協でコンビを組んで高齢者の問題に対処していくべきだと思いますが、スムーズに話が通じません。私たちも自治会との交流を深めたく親睦会等を増やす努力をする予定ですが、行政からも支部社協の仕事のアピールを宜しく願います。 ● 他地区の「ふれあいサロン団体」との交流も図っています。 ● 福祉課との交流をしている。 ● 平均年齢70歳を超える団体なので、<u>他団体との協働等を図っていきたい。</u> ● 他のNPO団体との<u>情報交換の場に積極的に参加する</u>よう心がけています。 | <ul style="list-style-type: none"> ● お祭りへの参加、保育園の園庭遊び、高齢者と交流等、<u>地域の方々との連携を積極的に図っています。</u> ● 各地域の民生委員・児童委員さんとの<u>情報交換・相互理解の機会を近々、作る予定</u>です。 ● 地域連携については、民生委員さんとの懇談会に参加し、知的障害児者のことが少し分かって頂けたのかと思います。次年度からは、各地区の民生委員代表とご相談し、<u>懇談会を実施したい</u>と思います。 ● 先般の民生委員・児童委員の選定に際して地区会長（自治会）の関与が増したが、今後、一層の関与強化が必要。また、必要に応じ、他のボランティア団体（福祉関係）から推薦を受けることも検討が必要。（特に児童委員に関し。） ● 自治会との連携が（団体の）活動上において一番大切なので、<u>密に連携を取り、共有の場を図り、活動しやすい状況であれば、（担い手として）受けてくれる方もいるのでは</u>と思います。 |
|---|--|

（次のページに続きます）

● 自立出来る高齢者を一人でも増やしたいが、家から出て来られない方が多い。その方々の声かけに力を入れています、十分ではありませんし、<u>自治会との協力でPRしているが、なかなか難しい</u>。10年間続けていることに皆様、ボランティアに感激感謝です。食材を買っている農家の協力も大きいです。 ● <u>地域の中心にあるURとの連携が上手く取れない</u>。市行政の今後の方向性が不明。今後、市とURの連携が取れるのか、窓口はどこなのか？	● 行政との連携を図りつつ、狭障連との懇談会（現在2回）を重ねていくことにより、光を見出していくことが出来ると思います。少しずつですが、課題を解決出来ると思っています。 ● 地域で行われているそれぞれの団体等の<u>会議、催事に参加させて頂けるよう働きかけ、積極的に職員で参加している</u>。 ● 具体的な対応はありませんが、ネットワークでつながった方にお楽しみ会に来て頂いたり、地域の地区センターを利用し、講座等を開催しています。
--	---

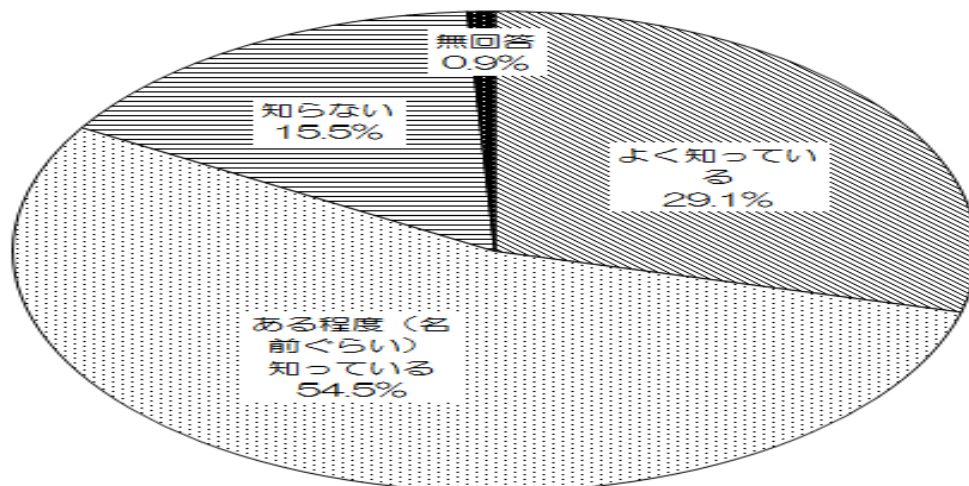
（7）その他

● 認知症など、誰にでも身近な問題に目を向けて活動する。 ● 自治会に加入しない住民の増加。<u>加入していなくても日常生活に支障をきたすことは無い</u>ことから、集合住宅や転入者は加入する所帯が少ない。 ● 月例の会長会に問題提起し、合議し、対応する。役所に尋ねてもはっきりした返答が得られないのは問題。何度、役所に行っても、担当課をたらい回しにされるケース。例えば、隣近所に迷惑をかける一人暮らしの住人への対応で、役所も法に振り回させられないで突っ込んで欲しい。<u>活動が広範囲にわたるので、地域住民を巻き込むのに苦慮している</u>。	● 親子共に高齢化し、本人の地域生活に必要な場所、ケアホーム入所施設等の必要性を感じて希望しています。災害時に障害者をもっと考慮願います。 ● 課題を解決する対策がないか、または、解決に困難を伴うので、お手上げ状態である。 ● 行政、社協、地域との交流、高齢者の見守りと活動が多く、自分の時間がなく、対象者の相談に余裕をもって出来ないことがあります、他の委員と協力して無理をしないように言っています。 （次のページに続きます）
--	---

● 平成23年度から「新生ハイッ35年プランづくりとその推進PJ」を推進中で、<u>取り組むことが望まれる地域課題を整理し、優先度の高い事業について積極的に具現化を目指している</u>。その一つに地域福祉の向上がある。 ● 幼稚園、保育園の先生や青い実学園へ、対応の相談をしています。	● 社協での会議や、狭障連については勉強会等の連絡をパソコンで受けるが、返事を遅れないようにするのが大変です。会幹部は目が不自由ですので、何らかの考慮をお願いします。研修旅行は北海道・沖縄など遠方で、旅費が掛かる時は障害者手帳が使えるように配慮も願います。動物等と、たくさん触れる機会を作って欲しい。（目が不自由なのでコンサート等も。）
---	--

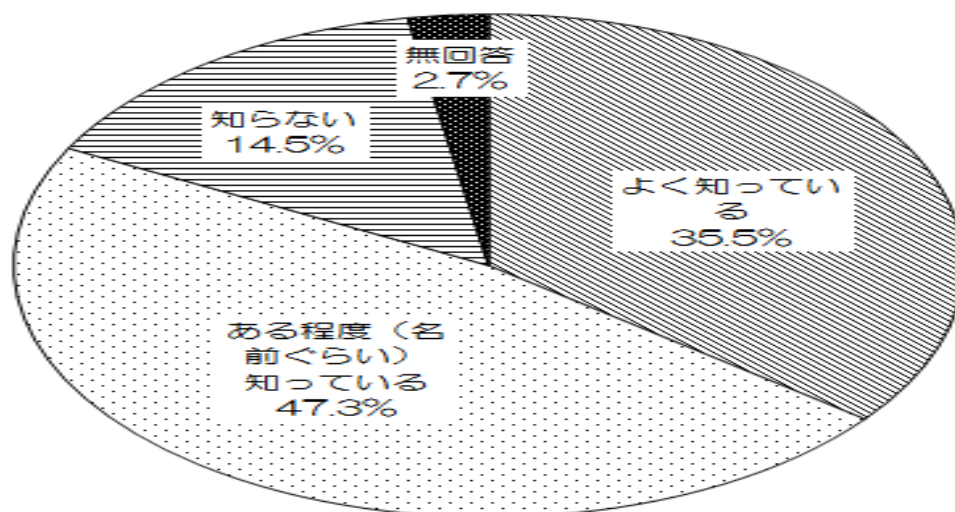
第3節 市などが行っている「地域福祉に関する取り組み」

問 10 市が策定した「狭山市地域福祉計画」を知っていますか。



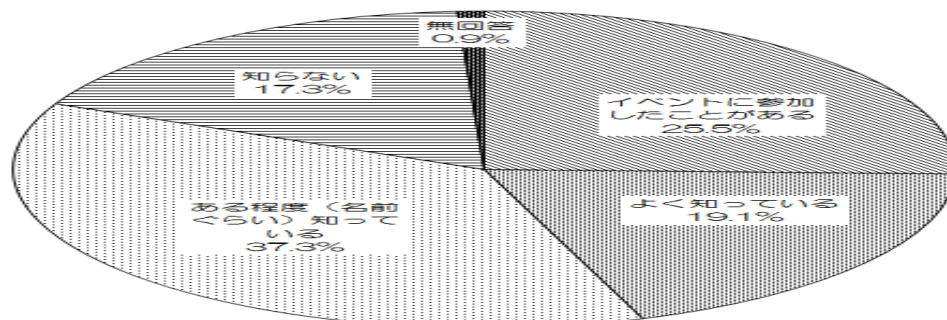
「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の83.6%となっています。

問 11 狭山市社会福祉協議会が策定した「狭山市地域福祉活動計画」を知っていますか。



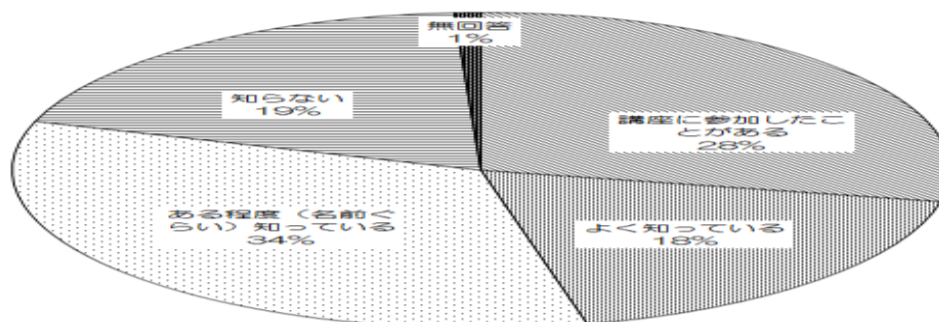
「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の82.8%となっています。

問 12 市が地域福祉の推進を図るために行っているキャンペーン「地域のつながりと支え合いを考える」を知っていますか。



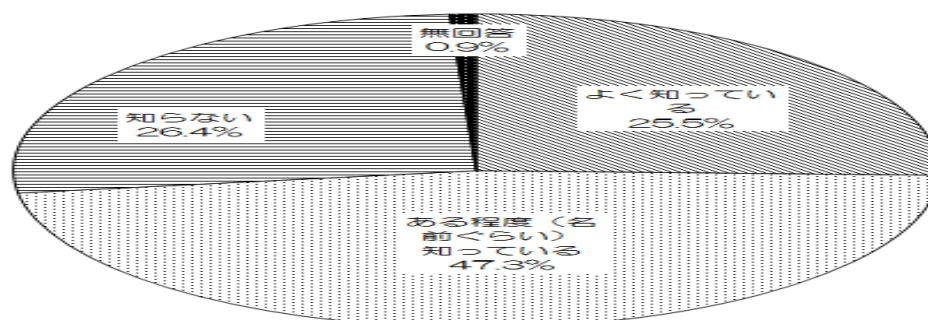
「イベントに参加したことがある」と回答された方が全体の25.5%となっています。また、参加をしたことがなくても、知っている方が全体の56.4%となっています。

問 13 市が開催する「地区福祉講座」を知っていますか。



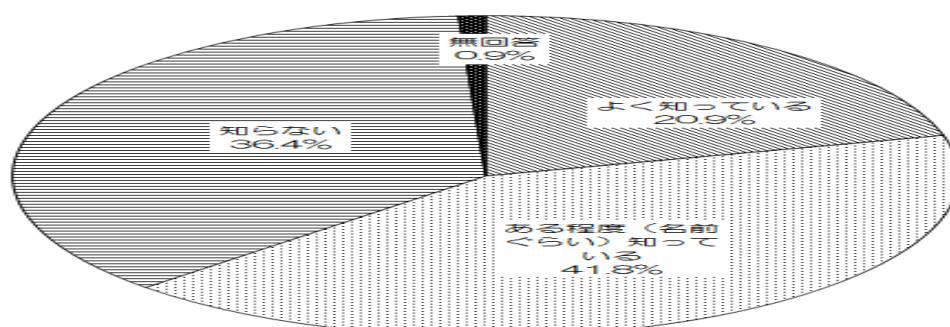
「講座に参加したことがある」と回答された方が全体の28.0%となっています。また、参加をしたことがなくても、知っている方が全体の52.0%となっています。

問 14 インターネットの狭山市ポータルサイト「さやマルシェ」上において、地域関係団体・事業所が検索できる「ふれあいネット」を知っていますか。



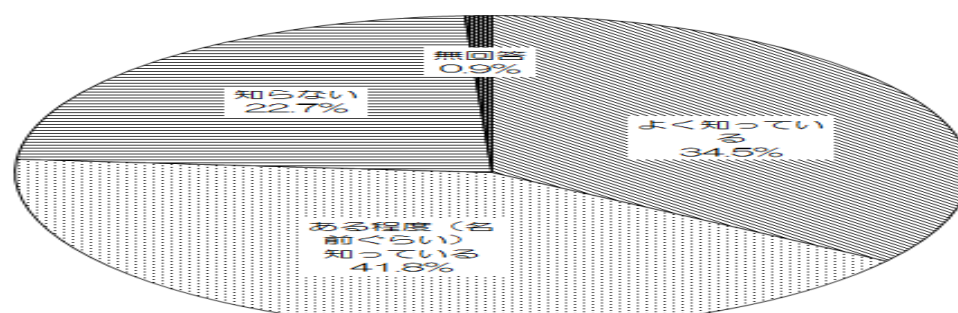
「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の72.8%となっています。

問 15 主に学校が取り組んでいる、児童・生徒に対する福祉教育を知っていますか。



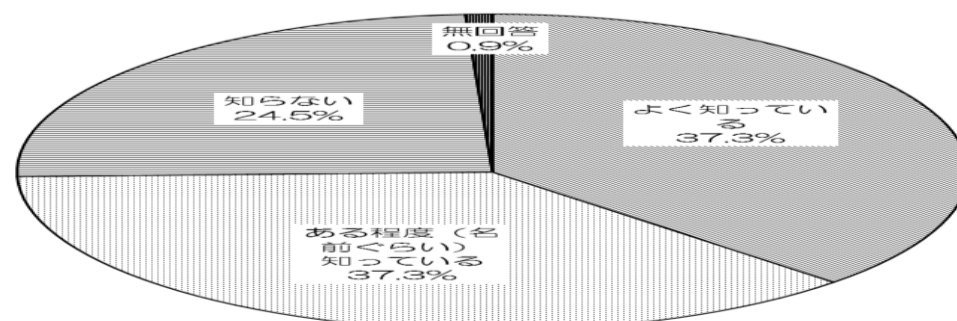
「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の 62.7%となっています。

問 16 狭山市社会福祉協議会が取り組んでいる「さやま成年後見センター」を知っていますか。



「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の 76.3%となっています。

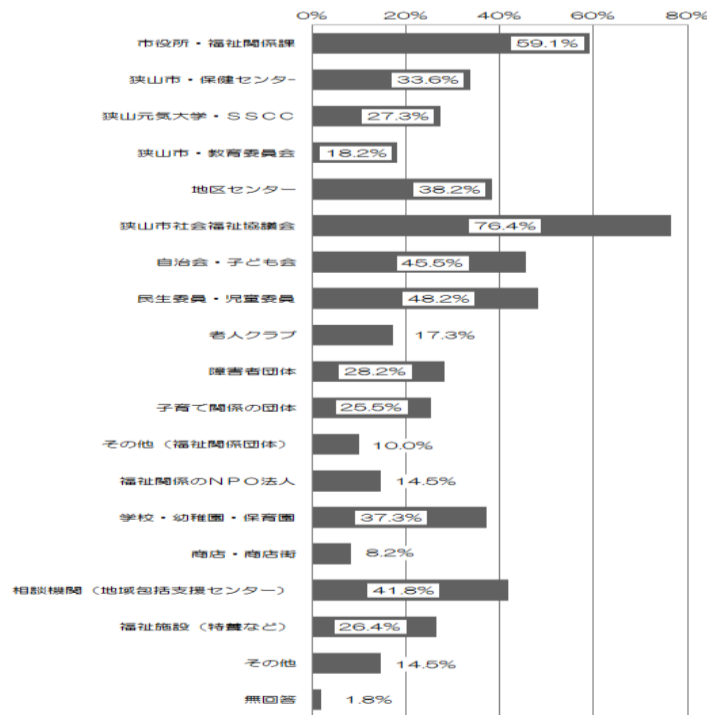
問 17 狭山市社会福祉協議会が取り組んでいる「災害ボランティアセンター」を知っていますか。



「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の 74.6%となっています。

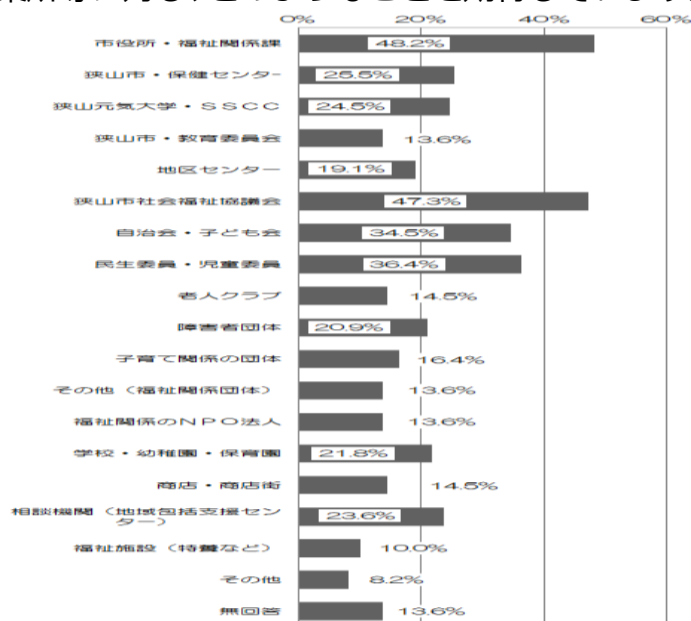
第4節 他の「機関・団体・事業所等との関わり」

問 18 貴団体・事業者では、現在、どのような機関・団体・事業所等と関わりがありますか。関わりがある場合は、その内容も教えてください。(答え「いくつでも」)



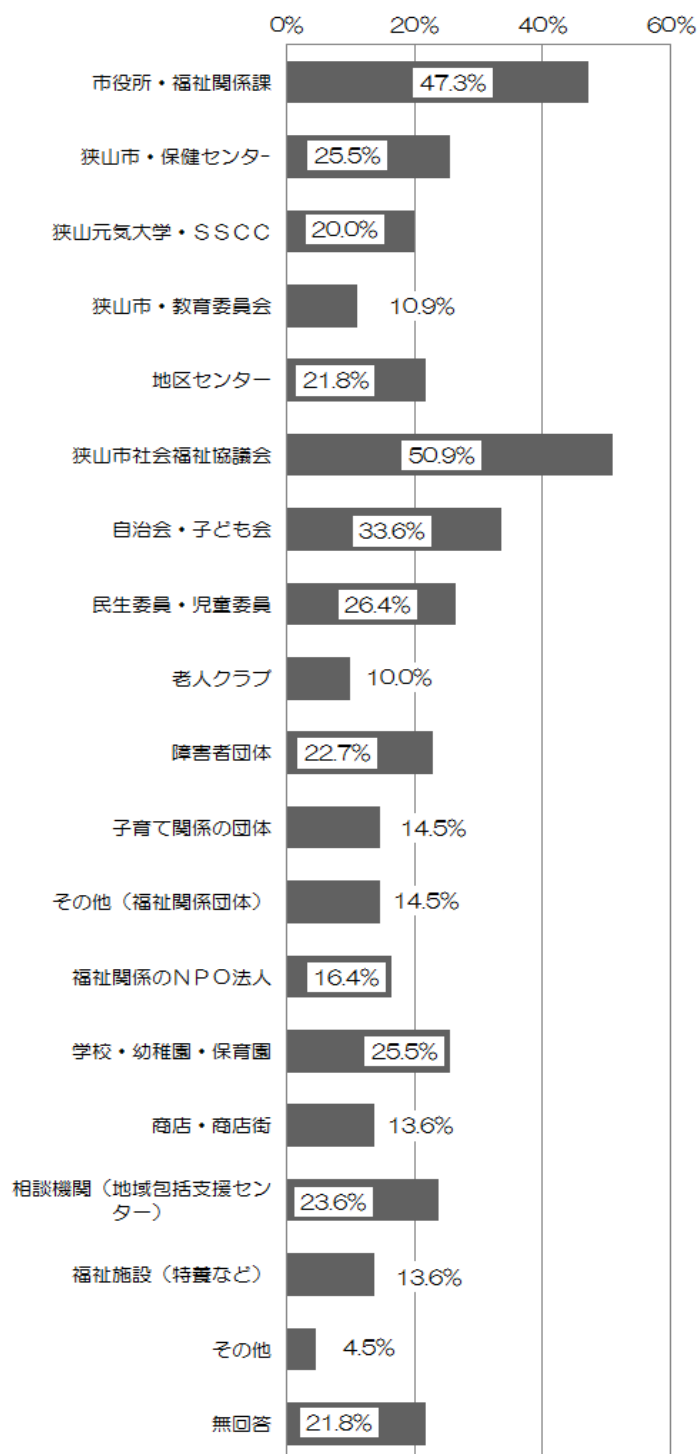
現在、関わりのある機関・団体・事業所等としては、「狭山市社会福祉協議会」(76.4%)がもっとも高く、次いで「市役所(福祉関係課)」(59.1%)、「民生委員・児童委員」(48.2%)、「自治会・子ども会」(45.5%)の順となっています。

問 19 貴団体・事業者では、今後、地域福祉を進める上で、次の機関・団体・事業所等に対し、どのようなことを期待していますか。(答え「いくつでも」)



今後、期待したい機関・団体・事業所等としては、「市役所(福祉関係課)」(48.2%)がもっとも高く、次いで「狭山市社会福祉協議会」(47.3%)、「民生委員・児童委員」(36.4%)、「自治会・子ども会」(34.5%)の順となっています。

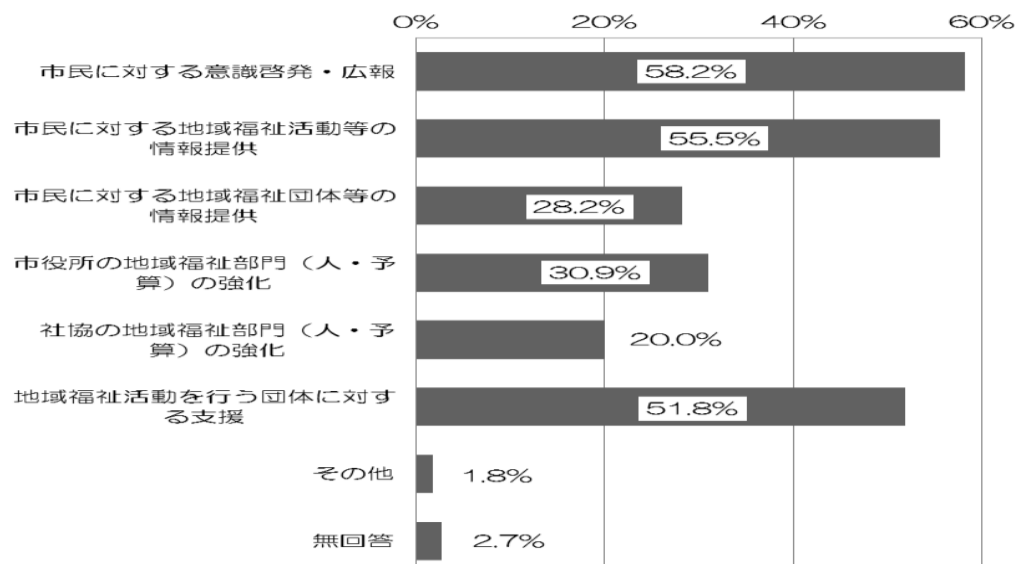
問 20 貴団体・事業者では、今後、地域福祉を進める上で、次の機関・団体・事業所等に対し、どのようなことが協力をできますか。(答え「いくつでも」)



今後、協力可能な機関・団体・事業所等としては、「狭山市社会福祉協議会」（50.9%）がもっとも高く、次いで「市役所（福祉関係課）」（47.3%）、「自治会・子ども会」（33.6%）、「民生委員・児童委員」（26.4%）の順となっています。

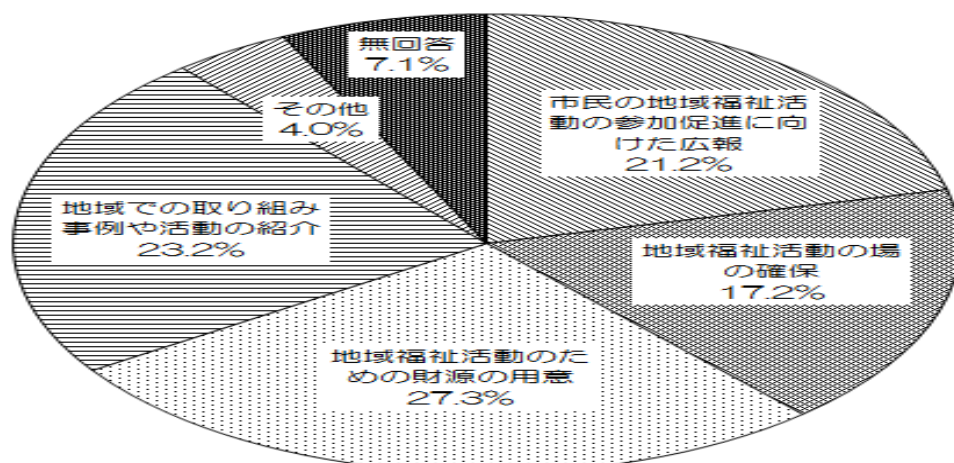
第5節 今後の「地域福祉施策」の方向性

問 21 市民が地域福祉活動に積極的に参加いただくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか（答え「3つ以内」）



「市民に対する意識啓発・広報」（58.2%）がもっとも高く、次いで「市民に対する地域福祉活動等の情報提供」（55.5%）、「地域福祉活動を行う団体に対する支援」（51.8%）の順となっています。

問 22 地域福祉活動を推進するための環境を整備するには、どのようなことが必要だと思いますか。



「地域福祉活動のための財源の用意」（27.3%）がもっとも高く、次いで「地域での取り組み事例や活動の紹介」（23.2%）となっています。

問 23 狭山市や社協が取り組んでいる「地域福祉の推進」について、ご意見やご提案、感じていることなどがありましたら、ご記入ください。

主な意見

- 内容のある学習の場が必要で、継続性も必要である。
- 地域で解決できない内容は、行政での積極的な調整をしてほしい。
- 地域の核となる人材をつなぐ助けをしてほしい。
- 高齢者に対する支援は充実してきている。障がい者や子どもに対する支援の充実を図ってほしい。
- 社協の活動や支部社協の活動が分かりにくい、伝わっていない。
- 自治会や他の団体とのパイプを太くし、地域に密着した活動をした方が良い。
- 若い人を巻き込んだ運営をしていく必要がある。
- 具体的な長期ビジョンを示してほしい。
- 良い取り組みは、どんどん紹介してほしい。
- 一時的なものではなく、継続させていくための方策を考えていく必要がある。
- 人数や予算の拡大が必要である。
- 地域住民、一人ひとりが傍観者にならずに、出来ることを協力することが必要。現状では、一部の人がやっている印象が強い。
- 地域に根差した情報を発信していく必要がある。
- 組織に拘らず、近隣でつながる地域福祉の推進を図ると良い。
- 地域包括支援センターを中心としたネットワーク、情報交換に期待している。
- 自治会との連携が大切である。
- 高齢者の情報がない中では、見守り活動の推進と言われても、そのサポート体制に不安がある。
- 自治会を中心とした、ボランティア活動を企画してほしい。
- 限られた人員のため、外部との交流に難しさを感じる。

(1) 市への意見、要望、感想

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 「地域のつながりと支え合いを考える」キャンペーンや「地域福祉講座」は大変良いと思います。<u>参加人数だけでなく、内容が大事だと思います。</u>● 福祉学習の場の充実が必要。● 福祉及び健康講座等の継続を望みます。● 広報誌（市役所・公民館）による活動への参加促進をしてほしい。● 地域全体で高齢者等の交通安全に関する件で、<u>自治会長では解決出来ない内容については、行政での積極的な調整をお願いしたい。</u>（道路の迂回路の説得等もあります。）● 「障害者差別解消法」が 6 月 19 日に成立しました。「合理的配慮」自治体に法的義務があります。手話言語を条例に向けての取組みに盛込んでください。「聞こえない」ことを分かってもらい、<u>情報格差を生まない社会を。</u>● 障害者が地域で活動するためには、<u>移送や同行介助のさらなる充実をお願いします。</u>● 市役所高齢者関係の課に相談に行ったが、期待が出来ない返事だった。● <u>高齢者に対する支援は充実して来ていると思うが、子育て支援に対して市はどのように関わっているのか？</u> | <ul style="list-style-type: none">● 狭山台団地の空洞化、2 階以上の階に住む障害を持つ人達への支援、高齢化による社会からの孤立・引きこもり等、<u>行政やURの協力なしでは解決出来ない問題が山積している。</u>孤立死を避けるためにも、早急な協力体制の推進が必要です。● 元気な老人に対する福祉の推進は、現状で良いと思います。近くの場所でないと参加出来ない人も多くいるので、<u>場所の提供・確保が大切です。</u>● 地域で福祉講座を開いても、<u>参加してくれる地域の人達はほとんどいません。</u>民生委員に参加をしてもらい、<u>頭数を揃えるのが現状です。</u>行政で社協の仕事をもっともっとアピールして貰いたい。● 第三回福祉実践・研究大会の講演は、大変参考になりました。広く一般市民の参加が多くあれば、尚良かったと思います。● 住んでいるお隣近所で助け合いの和が広がり、誰もが住み良い街づくりが基本。<u>どの地区にも核となる人材はいるはずで、地域の点と点をつないでいけば、大きな力となる気がします。</u>その人達の力を借りて「福祉の和」を広げて行くこと。それに行政が力を貸してくださればいいのでは。 |
|--|--|

(2) 社協への意見、要望、感想

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 社協さんにボランティアさんをいつも紹介して頂き、大変有難く思います。特に保育のボランティアさんは、皆様、地域のベテランで、安心してお任せ出来ます。保護者のお母さん達も育児や家事の相談もされているようです。● 社協の地域福祉は高齢者に重さが多いと思います。<u>障害者にもより手厚い支援を希望します。</u>● 安定したサロン運営を継続していくには、一回当たり<u>最低限の財源（茶代としての額1000円）の助成を希望する。</u>● 社協の空いている部屋で、週1回集まり、料理教室・筋トレ・ダンス・コーラス等、自由に参加してボランティア活動も推進出来たら良いですね。● 支部社協の活動を高齢者中心の動きだけでなく、次世代を担う子どもなど、<u>若い世代を巻き込むような取り組みにして頂きたい。支部組織の活性化を図ってほしい。</u>● 青空の会は、狭山市の健康づくり団体として10年を超えたが、今まで社協との結びつきが薄かった。今後、緊密な連携を図り、更なる地域福祉の推進に貢献したい。 | <ul style="list-style-type: none">● 自治会とのパイプを太くして、地区は地区で福祉に取り組む。<u>自治会の中に福祉を取り入れる、そんな項目を社協と連合自治会で考えて欲しい。</u>● 市と社協が密接に協働すること。社協に実働部署をつくって、人材を配置すること。すでに実働部署はあるのかも知れないが、<u>積極的な行動が見えにくく、地域の任意団体に「丸投げ」のイメージがある。</u>● 地域福祉と社協の関連性と位置づけが不明。市内にひとつの社協が存在しても、各地域の福祉に役立っているのか疑問。<u>各地域の福祉団体（たとえば福祉関連NPO）と統合して、各地域に細分化し、地域に密着した組織と仕組みにしたらどうか。</u>● 前提となる社員増強方法に一工夫が必要。現状の方法には無理があるのと感じています。● 募金のお願以外、<u>何の福祉推進をしているのか？</u>自分達の中のみの活動であり、広く我々等に話しかけることすら見られない。 |
|--|---|

（次のページに続きます）

● <u>社協支部として地域へのPR活動の実施を図る必要がある。</u> ● <u>社協の活動が住民に周知されていない。</u>自治会と結びついて動くなど、活動をアピールする必要がある。 ● <u>頑張っているのは知っているのですが、あまり市民に伝わっていないような気がします。</u> ● <u>社協の職員数では、仕事の内容が多過ぎる感があります。</u>	● <u>社協が何をしているのか知らない人が多い。</u><u>広報活動を活発に！</u> ● <u>社協さんが発行しているボランティアメニューをもっと知って頂くため、広報さやまにも頻繁に載せて、もっと地域での取り組み、活動したきっかけ、良かったことなどをインタビュー掲載すると、皆、興味を持つかも知れません。</u>
--	--

(3) 市・社協に共通する意見、要望、感想

● <u>とても積極的にやられていると思います。</u> ● <u>現在の地域福祉活動は、高齢者が中心となって運営されています。</u>この傾向はますます進むと思いますので、<u>なんとか若い人を巻き込んだ運営を考えるべき。</u>自治会は勿論のこと、青年会議所・商工会青年部、市内の企業、大学や高校等とも連携を図る必要がある。 ● <u>精神疾患を抱えた人たちが、そのままの姿で暮らせる地域社会の実現に向けての具体的な長期的ビジョンを示して。</u> ● <u>今、どのような方々が、どのように活動されているのか、良い取り組みはどんどん紹介して欲しい。</u>中身が分かれば、興味を持つ人や新しいアイデアも出て来るのではないかと。	● <u>地域福祉の発展は、一時的な手助けではなく、継続して初めて成功するもの。</u>それが何であるのか共に考えないと平行線のままで終わってしまう。 ● <u>障がいの重い人が安心して暮らせるまちは、全ての人が安心して暮らせるまちだと思います。</u><u>一人ひとりが傍観者にならず、出来るところから協力しあい、市や社協は、福祉プランや地域福祉活動計画に基づき、着々と推進を期待。</u> ● <u>地域における福祉員制度を確立するために、予算が必要。</u> ● <u>市、社協に感謝。</u><u>人数や予算の拡大を希望します。</u> ● <u>高齢化、障害が増す中、「後見」に関しての対応が遅れているのではないかと。</u> ● <u>本気で地域福祉の推進に取り組んでいるとは思えない。</u>
---	--

(4) 自治会や民生委員への意見、要望、感想

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 各自治会との連携が大切であり、お互いがお互いにコミュニケーションを取り、助け合いの精神が大切。(楽しみながらの・・・)● 高齢者の情報が自治会役員に知らされていない。見守り活動の推進というが、民生委員一人で分かっている、一旦、ことが起こったら、サポート体制に不安がある。 | <ul style="list-style-type: none">● 団塊の世代のリタイヤ組が年々増えていきます。地域コミュニティの初めの一步は、自治会活動で班長になること、自分達が地域から浮かないように暮らしていくことが高齢化社会の基本だと思う。<u>自治会中心に、ボランティア活動等を主体的に企画願いたい。</u>● 自治会役員及び民生委員に対し、内容を説明願いたい。 |
|--|--|

(5) その他

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 「福祉」に関しては、それぞれ、個人の温度差があり、個人主義が強くなっている昨今、推進は難しく思われるが、<u>関係各所の地道な活動で道が開けると</u>思います。● やはり<u>一部の人がやっているとの印象が強い。</u>地域やまちづくりを様々な立場の人々が、世代を超えて自由闊達に意見を出し合う場が必要です。自分達の住む町をどうしたいのか、トップダウンではなく、ボトムアップしていく流れを各地域に根付かせられるかが重要です。● 行政や団体からの活動要請も必要だが、<u>組織にこだわらず、地域で近隣のつながりで出来る地域福祉の推進をするのが良い。</u>高齢者の見守り、安否確認、関係機関への情報提供。 | <ul style="list-style-type: none">● 地域といっても、その状況は多様であり、<u>地域の福祉に関わるベーシックな情報についても、地域単位で提供することが望まれる。</u>● 地域に根ざし、高齢者を把握している「地域包括支援センター」を中心とし、センターの担当地域で、現在、<u>連動している団体や拠点のネットワークを作り、情報交換をして、それぞれの団体拠点の門戸が広がり、行き来出来ると良い。</u>● <u>無償のボランティア活動を押しつける傾向がある。</u>このような考え方では活動が衰退していく。● 担い手の研修、情報が少なく、計画しても結果が伴わない。 <p>(次のページに続きます)</p> |
|--|---|

● 情報交換はとても大切で、意味のあることだと思います。ただ、限られた人員での施設運営の中で、<u>外部施設との交流の難しさを感じます。</u>	● 地域活動には、外に出られる余裕が必要だが、自身の生活が安定していないと出られない。
---	--